

# 新潟県の休日部活動の地域移行について

新潟県教育庁保健体育課長

稲川 俊啓

# 本日の説明内容

- 1 なぜ、部活動の地域移行を進める必要があるのか
- 2 新潟県のこれまでの取組と進捗状況
- 3 市町村の取組内容と課題
- 4 最後に ～誰のための地域移行なのか～

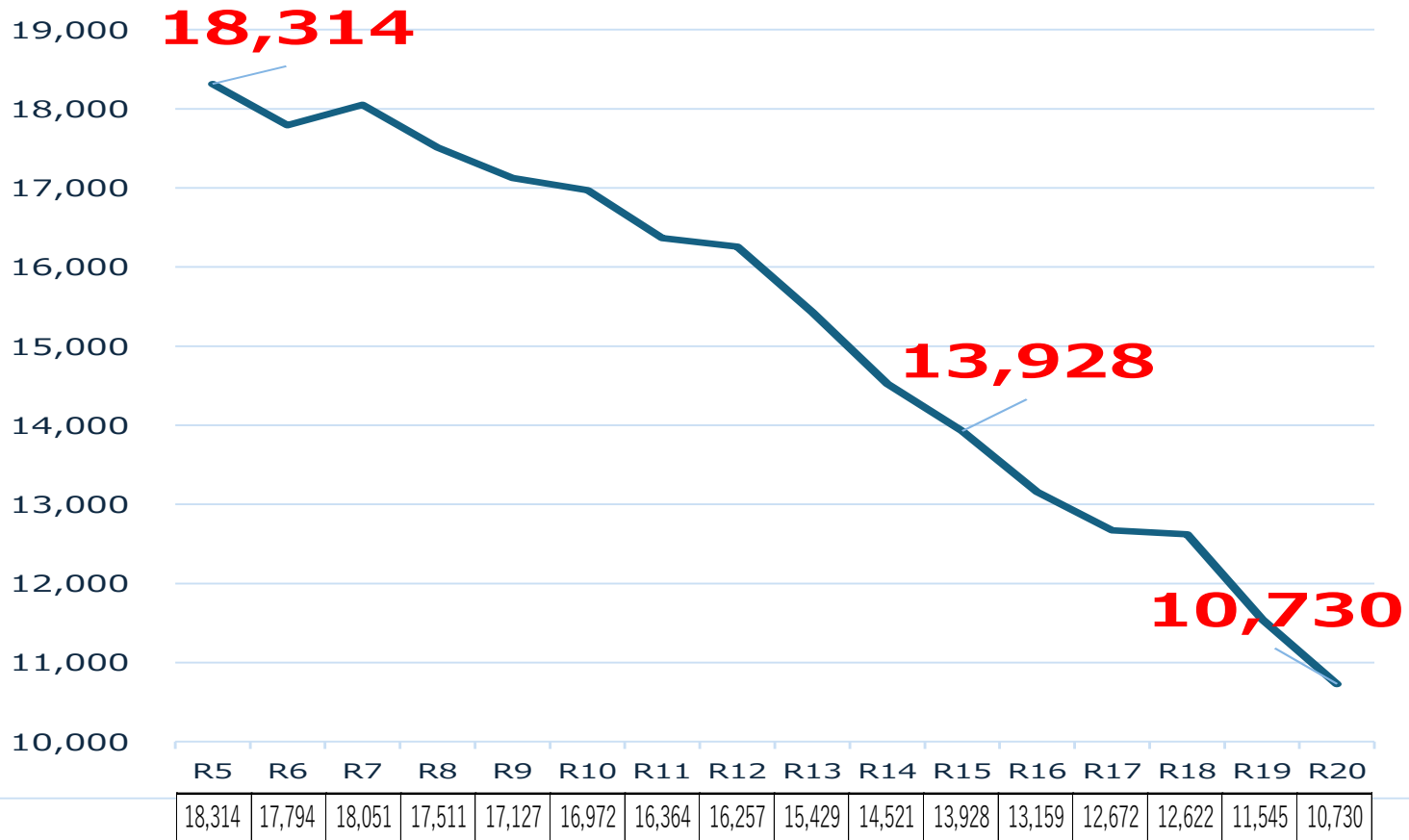
# 本日の説明内容

- 1 なぜ、部活動の地域移行を進める必要があるのか
- 2 新潟県のこれまでの取組と進捗状況
- 3 市町村の取組内容と課題
- 4 最後に ～誰のための地域移行なのか～

# 本県15歳人口推移

- 令和5年度から令和20年度までに約7,500人減少（190学級分に相当）
  - ▶ 学校の小規模化・教職員定数の減少

## 本県15歳人口推移



新潟県教育庁高等学校教育課調査を使用  
R13以降は、「年齢（各歳）別推計人口」（新潟県統計課作成）を使用

# なぜ、部活動の地域移行を進める必要があるのか

❓ どうして部活動改革を進めるの？

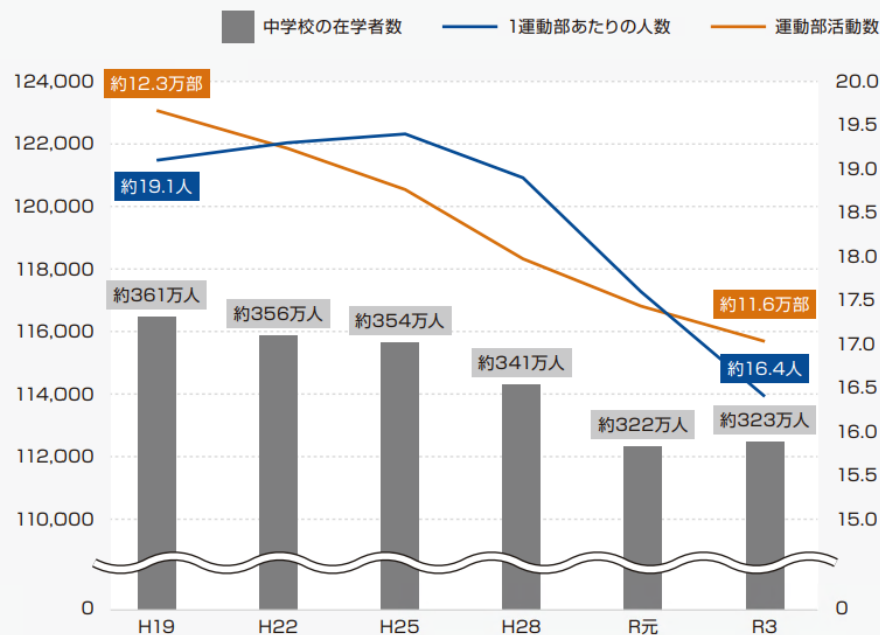
全国で **少子化** が深刻化

## ✓ 1運動部あたりの人数の減少

特にチームスポーツなど部員数が足りない  
団体戦に出られない・練習試合ができない！

## ✓ 中学校における部活動設置数の減少

やりたい部活が学校にない！



(出典) 中学校在学者数：「学校基本調査」/1運動部あたりの人数・運動部活動数：日本中学校体育連盟による調査

他にも…

- ✓ 専門的な指導を受けられない
- ✓ いろんなスポーツを体験してみたい
- ✓ 引退後、続けられる場所がない

## 子供のスポーツ機会を守る

### 地域の子供は、学校を含めた地域で育てる

- ✓ **地域で多様な活動**を楽しめる
- ✓ **有資格者・専門性のある指導者**
- ✓ **学校を越えた仲間の獲得**
- ✓ スポーツに限らない**多様な体験**
- ✓ **多様な世代**との豊かな交流
- ✓ **引退後も継続**したスポーツ機会

# 学校部活動から地域クラブ活動への移行の全体像（イメージ）

## 学校部活動

【位置付け】学校教育の一環（教育課程外）

指導者	当該校の教師
参加者	当該校の生徒
場所	当該校の施設
費用	用具、交通費等の実費
補償	災害共済給付



## 学校部活動の地域連携

■ **合同部活動**の導入や**部活動指導員**等の適切な配置により生徒の活動機会を確保

指導者	部活動指導員等、関係校の教師 （※アスリート・アーティスト等の人材を含む）
参加者	関係校の生徒
場所	拠点校の施設
費用	用具、交通費等の実費
補償	災害共済給付

■ 少子化の中、持続可能な体制にする必要  
（学校や地域によっては存続が厳しい）

■ 地域の実情に応じた段階的な体制整備

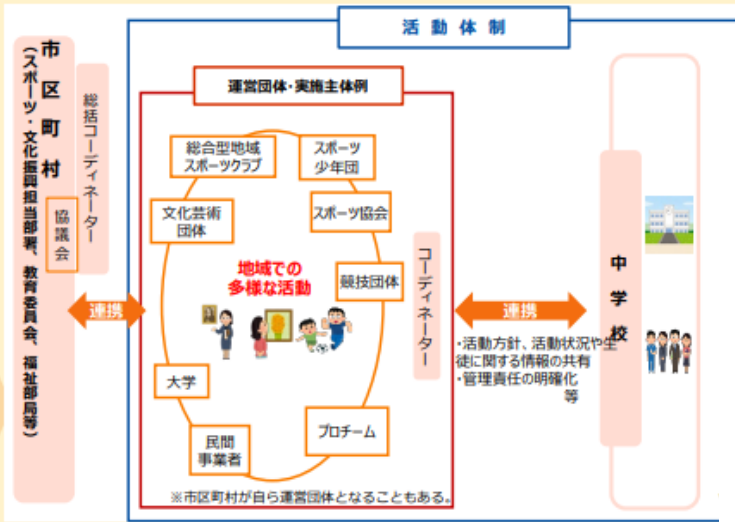
地域の実情に応じ、当面は併存

## 休日の地域クラブ活動

【位置付け】学校と連携して行う地域クラブ活動  
（法律上は社会教育、スポーツ・文化芸術）

■ **地域の多様な主体**が実施。学校は、活動方針、活動状況や生徒に関する情報の共有等を通じて連携。

運営団体・実施主体	① <b>地方公共団体</b> （※複数地方公共団体の連携を含む） ② <b>多様な組織・団体</b> （総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、体育・スポーツ協会、競技団体、プロチーム、民間事業者、大学、文化芸術団体、地域学校協働本部、同窓会等）
指導者	<b>地域の指導者</b> （一部教師の兼職兼業）
参加者	地域の生徒（※他の世代と一緒に参画する場合を含む）
場所	学校施設、社会教育施設、公共のスポーツ・文化施設、地域団体・民間事業者等が有する施設
費用	可能な限り低廉な会費 + 用具、交通費等の実費
補償	各種保険等



# 本日の説明内容

- 1 なぜ、部活動の地域移行を進める必要があるのか
- 2 新潟県のこれまでの取組と進捗状況
- 3 市町村の取組内容と課題
- 4 最後に ～誰のための地域移行なのか～

# 新潟県のこれまでの取組と進捗状況

## ◆ 令和2年度

- ・文科省「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」を踏まえ、部活動改革検討委員会で地域移行について議論をスタート

## ◆ 令和3・4年度

- ・国モデル事業の実施 4市
- ・部活動改革検討委員会、市町村教育委員会連絡協議会
- ・県スポーツ協会主催 地域ミーティング 4地域で広報活動
- ・「地域運動部活動制度設計の手引き」作成
- ・**県小中学校PTA連合会理事会での説明と広報紙への掲載 ①**
- ・部活動改革シンポジウム開催
- ・リーフレット（児童生徒・保護者・教員向け）作成
- ・大学と連携した指導者向け研修コンテンツ作成

## ◆ 令和5年度

- ・国実証事業の実施 22市町村
- ・部活動改革検討委員会、市町村教育委員会連絡協議会
- ・県スポーツ協会主催 地域ミーティング 4地域で広報活動
- ・各種調査（地域クラブリスト、市町村推進計画策定状況 等）
- ・**県小中学校PTA連合会広報紙への掲載 ②**





## 「新潟県における休日の部活動の段階的な地域移行（中学生にとって新しいスポーツ・文化活動環境の構築）の方針」（令和5年3月）

- 国が「改革推進期間」とした、令和5年度から令和7年度までの3年間に、休日の部活動の段階的な地域移行が完了するよう取組を進める。
- 県教育委員会、県観光文化スポーツ部、公益財団法人新潟県スポーツ協会、県中学校長会は互いに連携し、部活動の地域移行に向けた取組を進める市町村教育委員会、スポーツ関係団体、学校等に必要な情報の提供や指導助言を行うなど、それぞれの取組を支援する。
- 市町村は、令和7年度末までの地域移行完了に向けた「市町村の推進計画」を策定し、公表することが望ましい。
- 地域移行完了後は、原則休日の部活動は行わないこととする。

# 新潟県の進捗状況①

## 協議会・推進計画の整備状況（令和6年8月末時点）

〈新潟県〉既に休日の部活動を廃止している粟島浦村除く

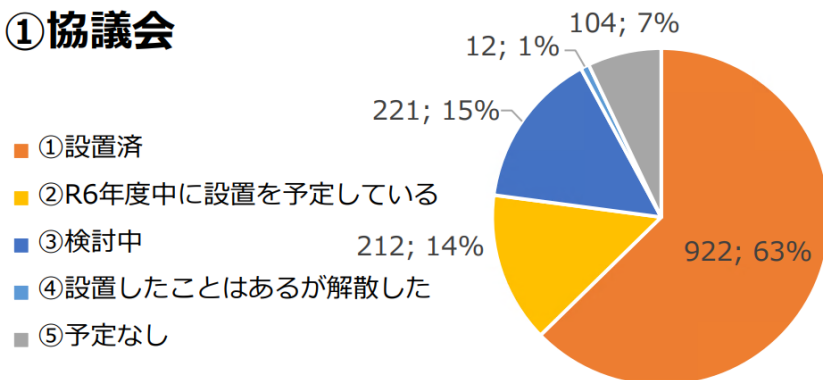
・協議会の設置率 **100%**

・推進計画の策定率 **100%**

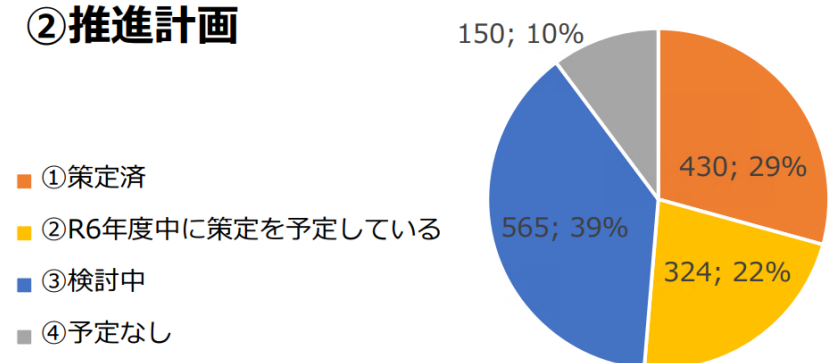
## 〈全国〉

3/4以上の自治体が、令和6年度中までに協議会を設置済みもしくは設置予定と回答。  
半数以上の自治体が、令和6年度中までに推進計画を策定済みもしくは策定予定と回答。  
一方、設置・策定の予定なしと回答した自治体もそれぞれ約1割見られる。

### ①協議会



### ②推進計画



# 新潟県の進捗状況②

## 令和5年度「運動部活動の地域移行に向けた実証事業」 22市町村

新潟市、上越市、三条市、柏崎市、小千谷市、加茂市、十日町市、見附市、村上市、燕市、糸魚川市、妙高市、阿賀野市、佐渡市、魚沼市、南魚沼市、胎内市、聖籠町、弥彦村、出雲崎町、湯沢町、津南町（市町村実施割合 73.3%）

関係団体との連携協力体制の構築、運営団体や実施主体・指導者の確保

## 令和6年度「地域スポーツクラブ活動の移行に向けた実証事業」 25市町村

新潟市、上越市、三条市、柏崎市、小千谷市、加茂市、十日町市、見附市、村上市、燕市、糸魚川市、阿賀野市、佐渡市、魚沼市、南魚沼市、胎内市、五泉市、新発田市、聖籠町、出雲崎町、湯沢町、津南町、阿賀町、弥彦村、関川村

（市町村実施割合 83.3%） ※今年度希望しない市町村においても、独自で取組を実施

受益者負担を基本とした自走化を目指した取組、運営団体の体制整備、広域連携の推進

## 「重点地域における政策課題への対応」 全国で7都道府県が採択

長岡市スポーツ協会…子供の多様なスポーツ体験の機会の提供  
アスリート人材を活用した取組

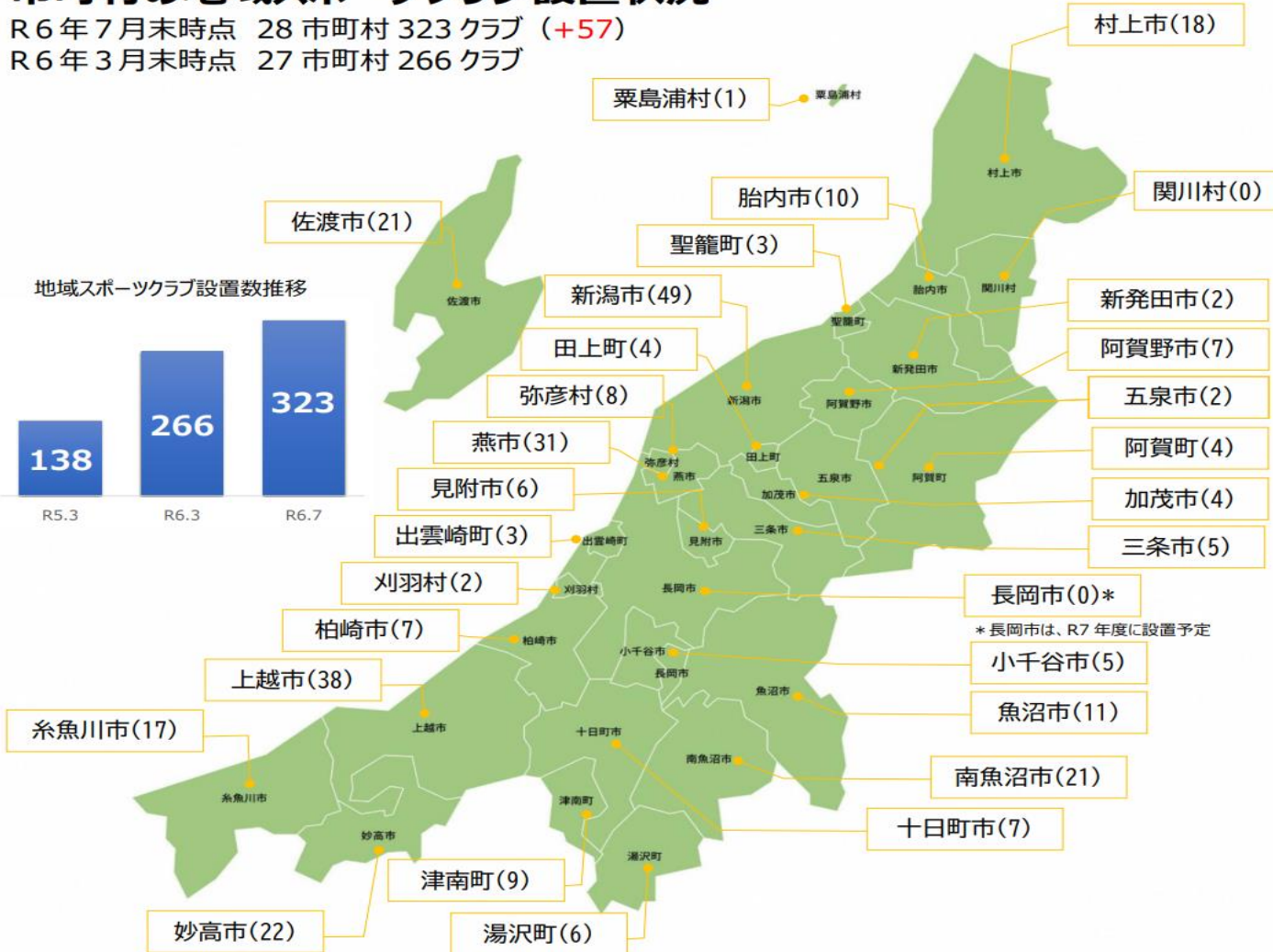
村上市…地域で活用している車両による移動手段の確保  
障害の有無に関係なく参加できるインクルーシブな活動の実施

# 新潟県の進捗状況③

## 市町村の地域スポーツクラブ設置状況

R6年7月末時点 28市町村 323クラブ (+57)

R6年3月末時点 27市町村 266クラブ



### 【部活動にない多様な地域スポーツクラブ活動の設置例】

胎内市（弓道・空手道）、新発田市（ラグビー）、新潟市（少林寺拳法）、田上町（ウェイトリフティング）、  
 弥彦村（ロード・トラック（自転車競技））、刈羽村（空手道）、上越市（ラグビー）、  
 燕市（空手道・グローブ空手・キックボクシング・車いすダンス・フィットネス&トレーニング・モルック・ゲートボール）、  
 妙高市（空手道・スケートボード&スノーボード・ストリートダンス・社交ダンス）  
 佐渡市（マリンスポーツ・ダンス・トレッキング・ボルダリング・自転車競技）

# 本日の説明内容

- 1 なぜ、部活動の地域移行を進める必要があるのか
- 2 新潟県のこれまでの取組と進捗状況
- 3 市町村の取組内容と課題**
- 4 最後に ～誰のための地域移行なのか～

# 本州市町村の取組内容

## 市町村

## 特色ある取組内容

### 長岡市

- ・ 中学校区を基本とした競技・種目毎の活動エリアを設置
- ・ 「さらに技能向上したい」「健康・趣味レベルで活動したい」といった生徒の多様なニーズに応じた活動機会の確保
- ・ 大学生やアスリートを活用した取組

### 村上市

- ・ 総合型地域スポーツクラブを主体とした取組を展開
- ・ 自治体が所有するバスを活用した送迎システムの構築
- ・ 障害の有無に関係なく参加できるインクルーシブな活動の実施

### 佐渡市

- ・ 技能向上を目指す「スキップ型」、マリンスポーツや鬼太鼓など佐渡の特色を生かしたスポーツ・文化活動を体験できる「エンジョイ型」の活動を実施

### 魚沼市

- ・ 休日の地域移行と合わせて平日の地域移行も一部で実施

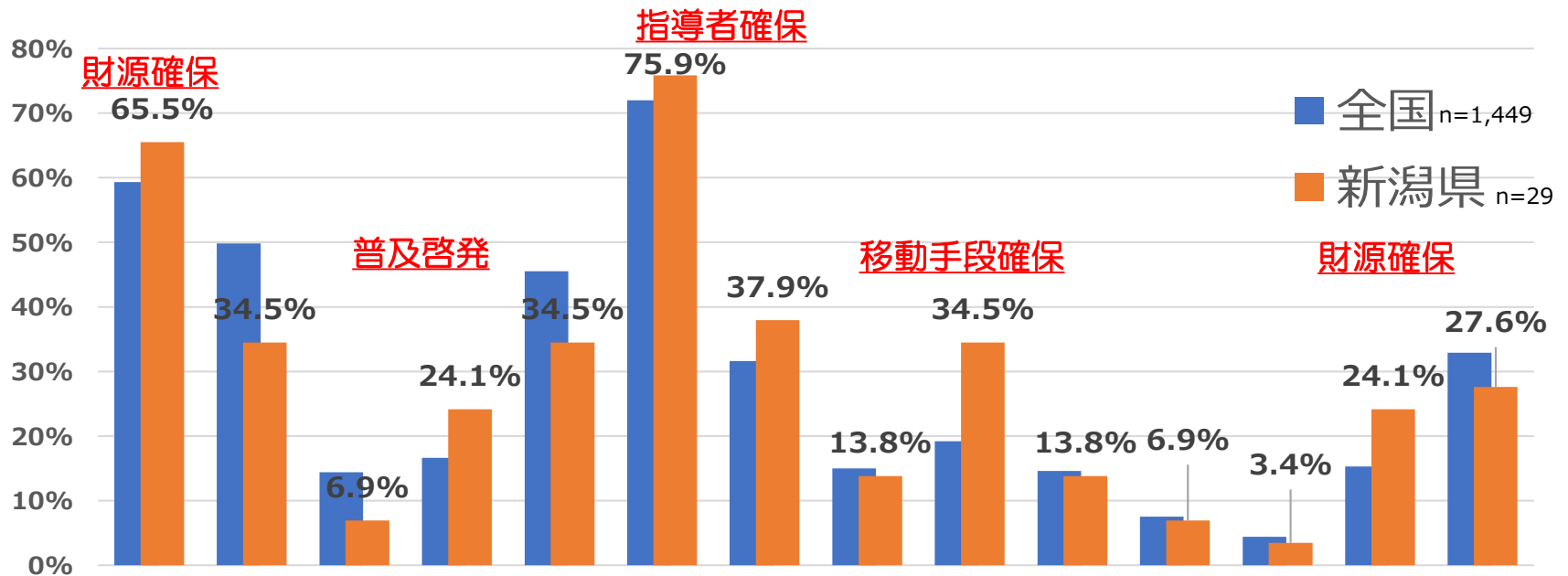
### 柏崎市 刈羽村

- ・ 2市村で合同地域クラブ活動を実施

※他市町村もそれぞれの推進計画に沿った取組を実施中

# 本県市町村の課題

本県市町村の課題として、「指導者の量の確保」の回答が最も多く、次いで「持続可能な収支構造の構築」、「指導者の質の確保」、「移動手段の確保」、「普及啓発・理解促進」の回答が多い。



① 持続可能な収支構造の構築

② 保護者等への普及啓発・理解促進

③ 学校関係者の普及啓発・理解促進

④ 地域関係者の理解

⑤ 自治体・学校と運営団体  
・実施主体の連携体制の構築

⑥ 指導者の量の確保

⑦ 指導者の質の確保

⑧ 活動場所の確保

⑨ 移動手段の確保

⑩ 平日・休日の一貫指導

⑪ 大会参加・引率規定

⑫ 大会運営体制

⑬ 参加費用に係る制度設計

⑭ 学校と運営団体・実施主体との役割分担や責任の所在



# 指導者確保のための人材バンクの設置

## スポーツ・文化芸術

## にいがた

## 地域クラブ活動指導者バンク

中学生のスポーツ・文化芸術活動に皆さんの力をお貸しください



### 『にいがた地域クラブ活動指導者バンク』とは!?

県内公立中学校等における休日の部活動の地域移行を着実に進めるため、部活動に代わる新たな地域スポーツ・文化芸術クラブ活動の指導や運営等を担っていただける方を募集（\*勤務日等のご希望は登録時に申請していただけます。）し、人材を必要としている市町村に対して、新潟県教育委員会が情報提供を行うものです。



### どうして部活動を地域へ移行するの!?

#### 現状は…

- ・ 少子化が深刻化!
- ・ 部員数が不足し団体戦に出場できない!
- ・ やりたい部活動が学校にない!
- ・ 専門的な指導が受けられない!
- ・ もっといろんな活動を体験したい!

#### これからは…

- ・ 地域で多様な活動を楽しめる
- ・ 学校を超えた仲間の獲得
- ・ 多様な世代との豊かな交流
- ・ 専門性のある指導者からの指導
- ・ 引退後も継続した活動機会の確保

子供たちのスポーツ・文化芸術環境の整備が急務



### 応募方法

#### STEP1

右記のQRコード、又は下記URLを読み取り、新潟県電子申請システムに利用者登録する。  
URL: [https://apply.e-tumo.jp/pref-niigata-u/offer/offerList\\_detail?tempSeq=12007](https://apply.e-tumo.jp/pref-niigata-u/offer/offerList_detail?tempSeq=12007)



#### STEP2

アンケートフォームに必要事項を入力し、登録申請する。

#### STEP3

登録したメールアドレスに「申込完了通知メール」が届いたら登録完了!



(問合せ先) 新潟県教育委員会

所在地 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

担当 スポーツ活動: 保健体育課 部活動改革担当 025-280-5643

文化芸術活動: 義務教育課 管理企画係 025-280-5629



### 応募資格

- ・ 市町村が部活動の地域移行を目的に設置した地域スポーツ・文化芸術クラブ活動で指導を担うことができる18歳以上の方（登録段階では、指導者資格の所有は求めておりません。）  
\*登録申請の際、性犯罪歴がないことなど、一定の事項に該当しないことについて、宣誓をしていただきます。

### 募集から任用まで

- ① 新潟県電子申請システムの登録フォームにより応募し、「にいがた地域クラブ活動指導者バンク」に登録
- ② 新潟県教育委員会は、応募者の登録内容について公開可能な情報を一覧にまとめ、県HPに公開
- ③ 新潟県教育委員会は、指導者を必要としている市町村に対して、必要な情報を提供
- ④ 市町村から登録者へ連絡
- ⑤ 市町村は、登録者の勤務条件等を確認し、面接等の選考を実施し、任用の可否を判断



### 注意事項

- ・ 指導対象は、中学生が基本となります（市町村によっては多世代が参加する形態もあり）。
- ・ 勤務日や指導者謝金等の勤務条件は、各市町村が定める規程によります。
- ・ 指導者バンクの登録者に必ず指導の依頼がある訳ではありません。
- ・ 市町村と指導者間における交渉及び契約等は、当事者同士が直接行うこととし、生じた損害等については、県は責任を負いません。
- ・ 「指導者バンク」に登録した情報は、市町村が指導者を選考・任用する目的のため、新潟県教育委員会の他、当該市町村所管課で共有します。目的以外での使用は一切いたしません。

# 本日の説明内容

- 1 なぜ、部活動の地域移行を進める必要があるのか
- 2 新潟県のこれまでの取組と進捗状況
- 3 市町村の取組内容と課題
- 4 最後に ～誰のための地域移行なのか～

# 児童生徒のニーズや声を反映させる①



令和5年10月28日(土)に、こども家庭庁が行う「こども若者★いけんぷらす」の枠組みで、10人の中学生(9都府県)から中学校の休日の運動部活動の地域クラブ活動への移行について意見を募集した。

## 指導者の質

- ・ すごい指導者の合同練習会があればいい
- ・ (時々でも)プロに教えてもらうのは効果的で、重要。
- ・ やりたい人がいればそれだけでクラブは作れる。指導者は見つけられたいねという感じで、好きなようにやっていけばいいのではないか。

- ・ 軽く・楽しむことを目的にしてほしい
- ・ 一つ一つの部活をゆるくしてほしい
- ・ 遊びでもスポーツができればいい
- ・ 体育で遊びたい。部活はガチすぎる
- ・ 勉強と両立するため、短時間でできる運動であればいい
- ・ スポーツは楽しみながらできるほうがいい
- ・ エンジョイしたい人と大会で勝って実績を積みたい人のバランス

## ニーズに応じた活動

## 交流の活性化

- ・ やれる部活の種類が増えたり、他校の生徒と試合ができたりしたら嬉しい
- ・ いろんな人と交流できる運動施設があれば、それを目的に運動しに行ける。

## レベルに応じた活動

- ・ 初心者など、レベルで分けたほうがいい。
- ・ 指導者の人数を増やしたら、どちらのタイプの人も見つめられるのでは
- ・ 募集の際に「初心者でも優しく教えます」と記載されたりしていると初心者でも安心できる
- ・ 学年関係なく同じレベルからスタートだと良い。
- ・ 運動が苦手な人で集まっているいろいろなスポーツを経験できれば、恥ずかしくないし、得意なものや自分ができるものも見つかるのでは

## 部活動の課題

- ・ 所属する部活の時間以外の時間に他の活動をしたい
- ・ 休みのタイミングを調整して兼部できるシステムがあったらいい
- ・ 部活は辞めづらいし途中入部もづらい。
- ・ 顧問の先生が知識もなく、よく知らないのに口を出してくるのは困る。プランを一緒に考えてくれるだけでもいい。
- ・ 団体競技では特に他校と交流を持ったりたいのと思うが、先生たちの交流がない。

- ・ 様々な部活・いろんな種目を体験して楽しむことができると面白い
- ・ いろんな競技を練習の一環として経験できるといい。
- ・ レクリエーション的なものを土日にゆったりできるといい。
- ・ 学校に部活という枠をつくるより、やりたい人が地域のクラブに行きやる方が続ける義務感の問題もなくいい。
- ・ 地域クラブの種類は部活の種類より多いと嬉しい

## 多様目

## 金銭的不安

- ・ 金銭面で外部のクラブに入るハードルが下げられたい
- ・ 月払いだと「お金がかかるから休めない」となるので、都度支払いがいい。



## やってみたい活動

スキー/スケートボード/ラグビー/弓道/卓球/  
パルクール/新しいスポーツをやれたらかっ  
こいい/ボッチャやモルックといったパラリ  
ンピック競技/バンド活動/メイク/畑で何か  
育てることができると嬉しい

## 部活動地域移行へ推進委

弥彦中・10月から段階実施

### 生徒も参加 意見交わす

弥彦中学校の休日の部活動指導を地域に委ねる「地域移行」に向け、村内のスポーツや学校の関係者でつくる地域クラブ活動推進委員会が発足した。メンバーには中学生も3人加わり、今年10月からの段階的な移行に向けて意見を交わした。

弥彦村では2022年5月に「部活動の在り方検討委員会」が発足し、推進計画を策定。今年10月以降の原則第2・4土曜を地域クラブ活動日とし、陸上や野球など八つの部活を対象とした。25年度までを土台つ

くりの時期と位置付け、指導者の発掘・確保や研修体制の整備に力を入れる。6月上旬に弥彦中で地域クラブ活動推進委の第1回会合が開かれた。村スポーツ協会や小中学校のPTA役員、校長ら計15人が、村教育委員会から委員の委嘱を受けた。このうち3人は弥彦中学生で、2年の中澤樹さん(13)と、いずれも1年の牧野たま代さん(12)、本間樂さん(12)が就任した。

会合で3人は地域移行の在り方について発言。「コ

「チとリラックスして話せて、時には楽しく、時には真剣に部活ができるという」「教室だと言いにくい述べていた。ことも部活では笑い合っていて話せる。そうした点は変わらないでほしい」と意見を述べていた。



地域クラブ活動推進委員会の委員に就任した弥彦中学校の(右から)本間樂さん、牧野たま代さん、中澤樹さん＝弥彦村矢作